

# 地理 A 学習指導案

日 時 : 平成\*\*年\*\*月\*\*日 (\*) \*校時  
 対 象 : \*\*\*類\*年\*組\*\*名  
 場 所 : \*\*\*類\*年\*組教室  
 授 業 者 : 教諭 齋藤 展希  
 使用教材 : 高等学校新地理 A (帝国書院)  
 新詳高等地図帳 (帝国書院)  
 副 教 材 : フォトグラフィア地理図説 2015  
 (とうほう)

## 1 単元名

第1部 世界の諸地域の姿と地球的課題 2章 人間生活を取り巻く環境 3節 人々の生活と気候

## 2 単元の目標

世界の気候の主な要素の分布の特色を世界的な視野から大観させ、諸地域の自然環境の差異や類似性に気付かせるとともに、各構成要素は相互に有機的に関係しながら諸地域の人々の生活・文化に対して様々な役割を果たし、意味をもっていることを理解させる。

## 3 単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
世界の気候に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し、捉えようとしている。	世界の気候について、分布や人間生活との関わりなどを多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。	世界の気候に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表にまとめたりしている。	世界の気候について、分布や人間生活との関わりなどを理解し、その知識を身に付けている。

## 4 指導と評価の計画

次	時	主な学習活動・内容	評価の観点				□評価規準・■評価方法
			関	思	技	知	
一	1	○生活と気候のかかわり 気候の違いをもたらす要素にはどのようなものがあるのかみていく。					□気温・降水量などの気候要素と地形や海流などの気候因子やケッペンの気候区分についての基本的な事からや追究の方法を理解し、その知識を身につけている。 ○ □風(大気大循環)についての基本的な事からや追究の方法を理解し、その知識を身につけている。 ■ノートの記述とテスト
	2	気候帯の分布に強く影響する風にはどのようなものがあるかみていく。					
	3	○雨温図の見方とつくり方 気温と降水量の統計資料から雨温図をつくる。また各気候区の特徴を読み取る。			○		
4 本時							
二	1	○熱帯の気候と人々の生活 熱帯の地域にはどのような植生や土壌がみられ、また人々の生活にはどのような特	○		○		□熱帯の気候と人々の生活に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し、捉えようとしている。 □熱帯地域にはどのような植生や土壌がみら

	徴があるかみていく。				れるのか写真などの諸資料を読み取っている。 ■ノートの記述とテスト
2	○乾燥帯の気候と人々の生活 乾燥帯の地域ではどのような場所で人々が生活しているのか、またどのような農業が行われているのかみていく。		○	○	□乾燥帯の人々の生活を多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。 □乾燥帯の生活についての基本的な事からや追究の方法を理解し、その知識を身につけている。 ■発言の内容とテスト
3	○温帯の気候と人々の生活 日本と同じ温帯に属していても気温や降水量の違いにより人々の暮らしは異なる。その違いをみていく。		○	○	□温帯の各気候区の分布や特徴について多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。 □温帯の生活についての基本的な事からや追究の方法を理解し、その知識を身につけている。 ■発言の内容とテスト
4	○亜寒帯・寒帯の気候と人々の生活 亜寒帯・寒帯の地域ではどのような農業や生活のくふうがみられるかみていく。		○	○	□亜寒帯・寒帯の人々の生活について地図や写真などの諸資料を読み取ったり図表などにまとめたりしている。 □亜寒帯・寒帯の人々の生活についての基本的な事からや追究の方法を理解し、その知識を身につけている。 ■学習プリントの記述とテスト

## 5 指導上の立場

### ○単元観

この単元では人間生活を取り巻く環境のうち、人々の生活と気候について学習する。気温や降水量、植生や土壌などに関する諸事象を取り上げ、その分布や人間生活とのかかわりなどについて考察させるとともに、諸地域の気候の差異や類似性に気付かせたい。

### ○教材観

教科書や副教材の地図や写真、統計資料を効果的に活用し、世界の気候について、気温や降水量、分布や特徴を読み取ったり図表などにまとめ、資料活用の技能を高めたい。また、多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現し、思考・判断・表現する力を高めたい。

### ○生徒観

このクラスは、\*\*\*類\*年\*組\*\*名（男子\*\*名 女子\*\*名）である。現代世界の地理的事象について知識・理解の定着が進んでおり、寡黙ではあるが学習プリントの記述から自然環境に対する関心と課題意識が高いことがわかる。どこに、どのようなものが、どのように広がっているのか説明するのが難しく、思考・判断・表現する力に課題が見られ、今後意識して指導していきたい。

### ○指導観

前時まで学習した内容である気候要素や雨温図の見方を踏まえ、実際に雨温図を作成し、グループで雨温図を読み取る学習を行う。グループ学習を通して、ケッペンの気候区分の気候記号の意味を考え、諸地域の気候の差異や類似性に気付かせたい。

6 本時案

(1) 本時の目標

降水量と気温に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったりグラフにまとめたりすることができる。また、諸地域の気候の降水量と気温の差異や類似性に気付くことができる。

(2) 展開

	学習活動	教師の指導○発問・指示◇支援	学習評価
導入 5分	1 雨温図の見方の復習と本時の提示	簡潔に前時の復習を行い、本時の活動を板書する。 ◇本時の見通しをたてる。	
展開 ① 15分	2 雨温図の作成 地図帳などの統計資料から、雨温図を作成する。	統計資料の提示、学習プリントの配布 ・雨温図を完成させなさい。 机間巡視 ◇ことばでの全体への指示は控え、作業に集中させる。	雨温図を作成することができたか。  プリントの記述
展開 ② 25分	3 雨温図の読み取り ①同じ気候帯の類似性と差異について気候帯ごとのグループで考え、発表する。  ②ケッペンの気候記号について記号ごとのグループで考え、発表する。	・A、C、Dのグループに分かれよう。 ○雨温図の似ているところと、違いについてまとめよう。 ◇あらかじめ学習プリントにグループを記載し、スムーズにグループがつかれるようにする。 机間巡視  ・f、w、sのグループに分かれよう。 ○f、w、sの意味を考えてみよう。 机間巡視 ◇あらかじめ学習プリントにグループを記載し、スムーズにグループがつかれるようにする。	同じ気候帯の差異や類似性に気付くことができたか。  発言の内容
まとめ 5分	4 学習プリントの提出	学習プリントの回収と次時の予告	